

「新たな動きを生み出す」

珠洲市長 泉谷 満寿裕

能登半島の先端に位置する珠洲市は、今もなお美しい里山里海が保たれています。豊かな「食」に恵まれています。そして何よりも素晴らしい「人」が暮らしています。

珠洲市の最大の課題は、人口減少です。これまで、本市の強みである「食」を中心に交流人口の拡大と農林水産業の振興を組み合わせる活性化を図り、雇用を増やし、定住人口の拡大につながるよう取り組んできました。平成27年3月の北陸新幹線金沢開業を機に本市への入り込みが増加いたしましたが、これまで進めてきた道の駅や宿泊施設の整備により、経済効果につなげることができました。

さらに、U・Iターン、移住・定住を促進するためには、本市の魅力を高めることが何よりも重要であることから、昨年秋に「奥能登国際芸術祭2017」を開催しました。市外や県外、海外からも含め、7万1千人もの多くの方々にお越しいただき、賑わいと活気に溢れました。アーティストには、それぞれの地域の歴史や特徴、魅力、潜在力の高さをアートで表現していただき、本市の魅力を、これまでになく広く、そして遠くまで伝えることができました。市民の皆様には改めて地域を見直し、地域への愛着や誇りを高めていただけたのではないかと思います。改めて考えてみますと、珠洲市の活性化、珠洲市の創生に向けて重要なことは、珠洲市の魅力を高めることと、市民の皆様の地域に対する誇りを高めることであると思います。そして、さらに、一体感を高めること。この3つが珠洲市の活性化、珠洲市の創生に向けてのベースです。「奥能登国際芸術祭」は、こうしたことに、見事につながったと思っています。

この「奥能登国際芸術祭」は、単なるイベントではなく、珠洲市から、人の流れ、時代の流れを変えていく運動であると考えています。「奥能登国際芸術祭2020」の開催に向けて、市民の皆様とともに新たな動きを生み出し、珠洲市の未来を切り拓いていきたいと考えています。